

北康利の
——最先端日本人伝——

第3回

「人づくり」こそ
「国家の再生」である!



ゲスト = 元国務大臣・内閣府特命担当大臣
村上誠一郎衆議院議員

北康利（以下、北）いまこの国は、かつてない深刻な経済不況の中にあり、我々は文字通り混沌の時代に生きています。そこで今回、東大弁論部の先輩であり、私の知る政治家のなかで、最も政策通だと断言できる元国務大臣・内閣府特命担当大臣の村上誠一郎衆議院議員にご登場頂きました。私は以前から、村上先生のご発言から、深い示唆をいただいていたいました。「小選挙区制は国を滅ぼす!」「国力は人口×能力+資源」「旧制高校・陸士・海兵・高等師範等の出身者がいなくなつてこの国はリーダー不在となった。教育こそ国の礎だ!」「官僚をバッシングして何の利益がある」「CO₂が本当に温暖化の原因なのか?」「民主党の財源なきばらまきマニフェストこそ仕分けしろ!」「国も地方も徹底した市場化テストで行政改革しスリム化を!」「参議院が常にねじれ現象を起こす。イギリスのように一院制がベターではないか」「世界の人口爆発に備え、水資源（エネルギー・食糧・情報）に注目せよ!」「財政を見る!この国に残された時間はあと二、三年だ!」等々。弁論部出身だというこ

とだけではないのかもしれませんが、先生は思いを伝える「言葉」を持つておられる。そして人一倍の情熱も。たとえば先生の国政報告会。昨年夏の時など、国を思うあまり途中で目を赤くされ、最後は涙声になっておられた。今日はそんな村上先生から、日本立て直しのための具体的施策を勉強させて頂きたいと思います。

村上誠一郎（以下、村上）北さん、いま日本は、致命的な「歳入欠陥構造」になってしまっている。平成22年度予算案は、終戦直後の昭和21年度以来初めて、国債発行額を税収が上回ったし。国と地方の借金が2010年度末には、973兆円に達し、またたくまに1000兆円を超えてしまふ。しかも、44兆の赤字国債を2年連続で出している。人間の身体であれば、出血多量で死んでいます。数字をきちんと把握しますと、国民金融資産というものは、1450兆程度ある（※1）。その内、住宅ローン等の数字を引くと、実は、1060兆程度が実際の資産ということになる。そこで、先に述べた国と地方の借

金は、2010年度末に973兆円ということを考えれば、残り資産は100兆円未満しかない。この状態で、同じように赤字国債を44兆円規模で借金を膨らませて行くと、日本は、どうなってしまうのか。あと数年で財政が大変なことになる。いつまでもあると思うな「親と運」ではないが、もう限界にきてる。ローマ帝国は、「パンとサーカス」によって滅んだと言われているんです。「パン」とは、即ち、子ども手当、高速道路の無料化、農家の戸別所得補償、高校無償化等のばらまきをすること。「サーカス」というのは、「事業仕分け」等のパフォーマンスで国民の目を欺くことです。特に、子ども手当については、なぜ所得制限を設けないのか。現金給付ばかりではなく、保育所や学童保育などの充実をなぜ考えないのか。子ども手当のばらまきによって、次の世代に大変な借金を背負わせることでいいのだろうか。子ども手当、高速道路の無料化、農家の戸別所得補償、高校無償化をまつ先になぜ事業仕分けしないのかということ。財源がないのにこのようならばまきを、どうして与党は

財政状況

○国民総資産 1450兆－(住宅ローン)=1060兆

○1060兆－973兆概≒＜100兆 87兆÷(44)≒2年間

973兆→(平成22年度末までの国と地方の借金)

○平成22年度予算 税収37兆＋ $\left\{ \begin{array}{l} 44兆(赤字国債) \\ 11兆(税外収入) \end{array} \right\} = 92兆$

○平成23年度予算 税収40兆＋ $\left\{ \begin{array}{l} 44兆円 \\ 8兆円 \end{array} \right\} = 92兆$

※1 村上誠一郎(2010年6月国政報告会資料)より

事業仕分けしないのか。子ども手当は、今貰えることが一時は嬉しいかもしれないが、次の世代は、利子を付けて何倍も税金を払わなければならない。社会保障も昔は8人でひとりを支えていた時代はいいけれども、今は、2名でひとりを支えなければならぬ

い。そう考えると、昔と同じようなシステムで持続可能かということです。私が言いたいのは、このような「歳入欠陥構造」という財政状況の中で、どれだけ歳出を抑えられるのかということです。日本の経済は、少子高齢化のために変化しつつある。日本人は人口が減少する中で、量より質、すなわち本当に質の高い生活をするために、「清貧」の社会にはどのような経済構造がいいのかということを、突き詰めて考える必要がある。今までは拡大再生産でGDPを拡大することが至上命題であったけれども、どのような経済構造や経済規模が妥当なのかということを、そろそろじっくり考えなければならないのではないだろうか。

北 私は松下幸之助の評伝を書いていて、彼がはじめた「5カ年計画」の重要性を痛感しました。企業だろうが、国家だろうが、リーダーたるもの、少なくとも5年後くらいのビジョンは明確に示すべきだと思うんです。いまご指摘のあった経済規模というのは、言葉をかえれば財政規模という

ことにもなるんでしょけど、一足飛びは無理でも5年後にはどういう形を目指しているんだという国家全体の総意、反対する人間がいるにせよ、政府はどこを目指しているんだってところを知りたいですね。あと、「安定」っていうのはとても大切なキーワードだと思います。私は、長く投資の世界で仕事をしていたんですけど、リスクは何かというと「ボラティリティ」だと教ええられるんですね。つまり変動の幅だ。つまり、国民が幸せに暮らすためには、比較的安定的で、5年後が予見できるような社会がいい。そうすると過度に貯蓄をしてリスクに備える必要もなく、消費や投資もしやすくなる。企業だって同じですね。では経済を安定させるために何ができるかと言うと、今の歳入の話でいえば、やはり消費税の増税と法人税の減税しかないと思います。現在は景気の影響を大きく受ける法人税と所得税、比較的安定的な消費税がそれぞれ歳入の20%ずつくらいずつを占めていますが、もっと消費税の割合を増やすべきだ。いわゆるスタビライザーの役割を果たさせるわけです。あとは社会保障の

受益者負担。経済的にしんどくなったら少なくとも使うようになるはずですね。こうした経済の収縮があっても歳入歳出構造を安定的にする仕組みが必要です。

村上 おっしゃる通りですが、財政は足し算と引き算が分かれれば、誰でも理解できると思います。国民もテレビのいい加減なコメントーターや報道に踊らされているのではなく、現実をもっと理解して、10年、20年先の財政状況を考えてもらいたい。

北 現状で、経済回復の足を引っ張っている最大の問題は「デフレ」でしょうね。私は先ほどの5カ年計画の話でいえば、日銀も企業と同じように基本的にはインフレターゲットを設定する、あるいは金融緩和を行う場合にも、どの指標をどこまで持つていこうとしているのかを明確に考えながら実行してもらいたい。つまり効果の検証が大切だということです。日本経済が待ったなしの状態になっている今、とりあえず批判が出ていって、それをかわすために適当に見つくるってやってみましたが、では困

るんです。

村上 経済を俯瞰してみると、中国が日本の10分の1の人員費で工業生産をしている。日本の隣の国が安い商品をどんどん輸出してくると、日本だけのデフレ対策では限界があると思います。これからは、他の国が真似できないような産業や付加価値の高いものをどう生産していくのが日本の課題だと思う。日本は付加価値の高いものを生産できる国だと思います。

北 先生、私はいま、この国の主役は別のところから出てもらわないと変わらないんじゃないかと思っています。男性じゃなくて女性。文系じゃなくて理系。中年じゃなくて、将来の国家破たんが一番影響を受ける若者。そして、中央でなくて地方。実際、中央よりも危機感を先に抱かれてきた地方の首長の皆さんにお聞きすると、仕分けなんてものはとっくの昔に終えておられ、地方の活性化に非常な指導力を発揮されている方が何人もいらっしゃる。先生は愛媛を選挙区にしておられますが、地方自

治に関して、どんなご意見をお持ちですか？

村上 限られた財源と地域の事情の中で、地域を元気にするには、何よりも知恵と工夫が必要でしょう。国が支援策を提供して、地域はその支援を受けるという構図





では、どうお考えですか？

村上 私は、道州制については、少し疑問があります。日本を6つか7つに分割すると、その地域においては、総理大臣よりも人事権や予算権を持った行政官が出現してしまう。私の考える地方再生とは、全国を30万〜40万人の都市でくくると、400の市町になる。それぞれが直接国と交渉するという形がベターだと思っています。例えば、島根県とか鳥取県は90万人くらいの人口なんです。つまり、30万人位の市が、3つ分ぐらいです。逆に言えば、3つの市のために県庁は必要がない。また州も必要ない。

援するのではなく、人口30万程度の生活圏の中核都市のインフラを充実させて地域全体の活性化を進める。民主党の政策には社会主義政党のようなばらまき政策が多く見られますが、勤勉な日本人が自国の繁栄を再び取り戻すためには、我々が選択したはずの資本主義本来の基本に戻るべきだと思います。資本の集中、競争、優勝劣敗による淘汰でもって効率化を進めることが、ひいては国家全体の繁栄につながるはずだということを再認識するべきでしょうね。地方の問題は、過疎地域の方々の生活補助をするのでは問題解決にはならないということです。

は、もはや適当ではないと思います。まず地域が、歴史や文化など地域の特性や資源を活用し、何とかしようと地域の独自性をアピールしないとだめなんです。自主・自立・自考のやる気のある地域が具体的なプログラムを作り、それを愚直に実行する。そのような地方に国が支援する仕組みが地域活性化には不可欠なんだと申し上げています。

北 いま、お話頂いたことは、日本経団連

も先生に近い意見ですね。効率化を考えると、田舎も含めて全部に金をばらまいて支

村上 まったくそうなんです。今こそ地方は、中央依存でなく自立が必要なんです。今までの地方自治の仕様の内容を考え直す時期に来ている。知恵を出せば活性化はできるはずなんです。具体的な話をすると、地域の活性化をしていく上で、その成功例として私が話すのが、広島県呉市の「大和ミュージアム」です。ここには実物の10分のサイズに縮小された全長26メートルの

北 いま話題に上がっている道州制に関し



戦艦大和が展示されていて、すごい迫力な
んですよ。2・3階には呉市の歴史や造
船技術を、4階には「宇宙戦艦ヤマト」の
模型や関連資料を展示している。つまり、
老、壮、青のそれぞれの世代が楽しめる展
示構成になっているのです。ですから、リ
ピーターも非常に多くのグッズの売り上げ
もあがっている。地域活性化というと、国
の補助金や交付金で箱物をつくるというイ
メージがありますよね。しかし、そうでは
なくって、地域の住民が、その地は全国に

名前を知られるもので博物館にして、市の
活性化につながっているケースがあるんで
すよ。また、創意と工夫が地域の活力につ
ながる例として「構造改革特区」というも
のがあるんです。岩手県遠野市はね「どぶ
ろく」特区の第1号です。原料には地元産
の米とアワやヒエを使って、農家や地域の
特性を引き出している。「大和ミュージア
ム」はね、呉市役所の1職員が10年がかり
で苦勞して集めた資料によってつくられた
んですよ。実物の10分の1のサイズの戦艦

大和も彼が探し出し
た実物の設計図を基
に製作した。たった
一人の職員がコッコ
ツと愚直に取り組ん
できたことが実を
結んでいる。

北 大きな金額をか
けずとも、中央に頼
らずとも、創意工夫
でやれる地方活性化
の手段はまだまだあ

るということですね。

村上 ただ地方自治という問題は、非常に
難しい一面もあるんです。なぜ難しいかと
言うのと、国家公務員は200万人から
50万人を切ったけれども、地方公務員は、
現在、300万人いるうち、ひとりと削
れない状態です。自治労が民主党を応援し
ていることもあり、民主党政権が地方自治
のスリム化に積極的ではない。地方自治が
難しいのは、それぞれ市町村長さんたちも
選挙を抱えている。ですから、大胆な人員
整理が非常にやりにくいんです。だから、
私が言っているのは、公的なサービスを民
間に委託するような「市場化テスト」(※
2)という施策を提案しているんですね。
つまり、簡単に言えば、官民競争入札制度
なんです。これは米国のインディアナポ
リスの市長が推進した政策で、市の仕事を
民間に委託することで、前の市長より市の
仕事を半分にし、住民税を引き下げまし
た。例えば、ある自治体では給食調理員が
実働200日程度で、年収約800万
円。民間で同じ職種の人と比べると、3(

4倍の給料です。そこに市場化テストを導入すれば、官と民がお互いに安くて質の良い仕事を提供できる。ある市では、一校区ごとに学校給食センターがあつたんですが、コストを下げるために官民の競争入札を行って、10数年かけて民間委託に切替えました。これは民間の活力と雇用を引き出すとともに、相対的なコストダウンに成功しました。削減したコストは、住民税の軽減や他の活性化対策に使えるわけです。このインディアナポリスでは、市道維持補修や下水道料金の徴収事業、空港運營業務、下水道処理施設運営、ごみ収集なんかも民間に業務を委託しています。こういうことと比較して、民主党の地域活性化政策は見るべきものがない。高速道路無料化や「子ども手当」の支給、農家への戸別所得補償など、単なるバラマキです。しかも財源がないため、地域は不安で仕方がない。地域に成長の種をまき、育てる政策ではない。今、地域を元気にするのは、それぞれの地域の指導者が、地域の特長を考えながら、具体的なプログラムを立案し、地道に自分たちで取り組むことです。地域には必ず宝

物があるはずで、その宝を、創意工夫で発見して、やはり、「自主・自立・自考」の精神でチャレンジしていく必要があると思っています。

北 地方出身の政治家の方は、中央はもつと地方に補助金を出すべきだといった話を声高にする傾向があります。地方選出の村上先生が、地方の活性化は「自主、自立、自考」だとおっしゃるところに、地方の誇りと志、そして国家全体を考える視線の高さを感じます。ほかにも頑張っておられる首長はたくさんおられる。中央から地方に行政指導する時代はすでに終わっていて、地方から国家改革の参考になる成功事例や貴重なノウハウが続々と出てくるのではないかとひそかに期待しているんです。

村上 財政も地域再生も大事ですが、この日本が過去、成功したのは、人を大事にして、人材を育てたからです。自分の体験からすると、旧制の師範学校や高等師範学校出身の先生と、戦後の教育学部の先生とは、正直言って全然情熱が違う。戦後、日本が

＜市場化テスト各国の例＞

インディアナポリス市(米国)の例

実施領域	落札者	受注者の概要
市道維持補修	官	市の公共事業部門が落札
下水道料金の徴収事業	民	電気会社などの他の公益事業会社も入札に参加。水道会社が最終的に落札。
空港運營業務	民	民間4社と公団職員チームが入札に参加
下水道処理施設運営	民	大手下水処理企業など5社が入札
ごみ収集	官・民	市内を11区に区分。うち1区は市直轄運営地区とし、残り10区につき入札を実施
ゴルフコース運営	民	ゴルファーの団体が落札
車両保守・維持	官	米国最大規模の車両維持サービス企業が3社も参加した入札で市の担当部局が落札
建物管理 (警察、消防、刑務所、オフィス等)	官	民間のビル管理業者との競争入札の結果、郡ビル管理公団が落札

※2 村上誠一郎(2010年6月国政報告会資料)より

失敗したのは、教育を疎かにして「読み」「書き」「算盤」(そろばん)「躰」をないがしろにしてきた結果です。なぜ韓国に徐々にあらゆる面で負けるようになってきたのか。韓国は徴兵制度があつて、しかも、国中がしっかりと勉強をさせるからです。わが日本は、財政も教育も戦後60年間でルーズになってしまった。財政、教育に関しては、今すぐ建て直しを始めても遅いくらいなんです。北さんは、評伝作家としてすばらしいのは、私より若いのに、戦前の基本的で教育を受けた立派な方々の話を世の中に広めておられることです。つまり、日本人の原型というものを書いていらっしゃるわけで、日本人には、きちんとした基礎学力の教育と躰と歴史教育が必要なんです。

北 やはり国の根本は人。人づくりこそが国家百年の計ですからね。

村上 私が常に言っていることは「真の教育とは、断片的な知識や技術を教えるのではなく人間の本质とは何か、生命とは何かを伝えることである。人間はいかに生きる

べきか、そして命を燃え上がらせるにはどうしたらよいのかを、命がけで伝えることである。生きるとは、単に生き長らえることではなく、何かに命をかけることである。命をかけた時、夢は現実となる」だね。こういう根本的な考えを持っていたきたい。具体的には、やはり、初等教育では基礎学力と躰を徹底すること。大事なものは、読み(読解力)、書き(文章力)、ソロパン(数的処理能力)の徹底ですね。特に、この文章力と数的処理能力というのは、地道にやらないと出来ない。私が小学生の時、担任の青木先生は、毎月一度、必ず作文を生徒に書かせました。今月は「働く人々」に関してとか、5月には、「バラについて」とか。青木先生がすばらしいのは、当時はコピー機がなかったので、優秀な作文を鉄筆でロウ紙に書き、ガリ版印刷をしてクラス全員に配ったことです。現在、東京大学で天文学の研究をしている渡辺鉄哉教授は同級生ですが、私と渡辺君は、いつも作文がなかなか書けなくて、本当に泣きながら書いた記憶があります。今、つくづく思うのは、今日我々があるの

は青木先生のお陰なんです。当時は鬼と想ったことがありましたが、今は本当に感謝しております。こうして歴史を勉強したり、いろいろな資料を分析できるのも先生の教育のおかげです。欧米の教育と日本の教育が一番違うのは、日本は大学入試までがピークです。大学入試までは塾に行ったり、予備校に通ったり一生懸命やります。しかし大学に入ると、グライダート同じで、水平に維持するか下降するだけです。欧米のすごいのは、中学・高校時代に自分のエンジンやプロペラや翼をつける努力をしています。その上、自分の頭で考える癖をつけて、大学に入ったら自分でテーマを設定して勉強するんです。日本はグライダー教育だから、大学に入ると勉強しなければほとんど学力が下がってくる。欧米のように、中学、高等教育で、冷徹な論理、熱き情熱、強固な意志を持ちながら、自分でテーマを設定し、自分の頭で考え抜く力をつける、自らの翼(エンジン)で問題解決できる力をつけることが非常に重要なことでもあります。日本が金融部門でなぜ弱いかなんて、欧米は日本人が考えつかないよう

な金融商品を作ってくる。若い時から自分の頭で考え抜く習慣を持っているからだと思います。最後には、「公の精神」と「青年の矜持」を持った志のあるリーダーを作るといことです。国のために頑張っている人達をしつかりと評価してあげないと駄目だと思うんです。人が遊んでいる時に勉強するということは辛いことです。「公」の精神をもって、勉強して頑張っている人達をもっと評価してあげて欲しいと思います。

北 社会主義的政策を続けてきたために、手を出して「おくれ、おくれ」ということを恥ずかしいと感じなくなっている。逆に国家への貢献といった、公の精神が本当に社会からなくなってしまうている。政治家や公務員が公を意識するのは当たり前ですが、国民が公を意識しなくなるところから国家は墮落していく。やはりこれも教育が重要ですね。日教組のように、「自分たちの権利を！」なんてことばかり声高に言っている教師が「人の喜ぶ顔を見ることを我が喜びとせよ」なんて教育できるはずないですからね。志を持って人生を歩め、つ

という教育をどうやって実現していくかです。すね。

村上 まさにそうなんです。志を持つ教育をどうやっていくのか。昨年、ノーベル賞を受賞された根岸英一先生は、「青年よ、大きな夢を持て」ということを言われました。ノーベル賞を受賞するのに50年かかったんだと。こういう話を聞いて、私は感激しました。根岸先生も、鈴木先生も、ノーベル化学賞を受賞していなかったら、日本の文化勲章すらもらっていないわけです。公のために尽くしている人たちに、この国はもう少し敬意を払うような国になって欲しいと思います。自衛官や警察官、海上保安官の方々にも敬意を払うようにして欲しいし、政治や行政の分野でも国民が認めてあげるようにしないと成り手がなくなるし、権威がなくなってしまうのではないでしょう。

北 先生、私は思うんですが、たとえば、吉田茂や岸信介などは、前途ある若者たちが、お国のために血を流して死んでいった

ことを一日たりとも忘れていない世代ではないでしょうか。しかも自分たちよりも若い人間を失っている。これは哀切ですよ。この国をしつかり再建していかなければ、死んでいった彼らに申し訳ないという思いが、彼らの力になったはずなんです。先生は、ご自身の「国政報告会」資料のなかで「戦場からの遺言」という文章を掲載されていますね。私、この文章を読んで泣きましたよ。これは絶対大樹に載せようと思いました。ぜひ多くの方に読んで頂きたい。そして再び、子や孫にこの国を託して死んでいった彼らに申し訳が立たない、という思いを新たにすることが必要だと思っんです。

村上 実は、私が、財務副大臣当時に夜遅く家に帰ってきた時に、NHKの「人間講座」の『戦場からの遺言』で取り上げていた文章（※3）なんです。この文章を書いた山本幡男さんというのは、1954年当時、30代でお亡くなりになっているんですが、非常に立派な文章を書かれています。日本という国は、戦前の教育を受けた人々は、このような見事な文章を書ける能

力、学力があつたわけですから。特に、私が感動したのは、当時、ソ連は日本に文書等を持ち帰ることを一切許さなかったのです。

この文章は、戦友が分担してタバコの箱の裏側やメガネのツルの中に忍ばせて日本に持ち帰ったものをつなぎ合わせ再現したものだということです。「日本民族こそは将来、東洋、西洋の文化を融合する唯一の媒介者、東洋のすぐれたる道義の文化——人道主義を以て世界文化再建に寄与し得る唯一の民族である。この歴史的使命を片時も忘れてはならぬ。最後に勝つものは道義であり、誠であり、まごころである」と書いてあります。敗戦直後の日本人が、これだけの誇り高き文章を書けたのかと、私は心底泣きました。これだけは、私は、みんなに読んで欲しいと思って、自分の活動報告書に常に掲載しております。

北 前にお話がでた財政問題にしても、「今、我々がやらないと、孫たちが苦しむことになる」と思うはずなんですよね。そう思えば、歯を食いしばってでもやらねばならないはずなんですよ。

「戦場からの遺言」
子供等へ。

山本顕一厚生 誠之 はるか 君たちに会わずに死ぬことが一番悲しい。成長した姿が、写真ではなく、実際に一目見たかった。お母さんよりも、モジミよりも、私の夢には君たちの姿が多く現れた。それも幼かった日の姿で……あゝ、何といふ可愛い子供の時代!

君たちを幸福にするために、一日も早く帰国したいと思ってゐたが、到頭永久に別れねばならなくなったことは、何といつても残念だ。第一、君たちに対してまことに済まないと思ふ。

さて、君たちは、之から人生の荒波と闘って生きてゆくのだが、君たちはどんな辛い日があろうとも光輝ある日本民族の一人として生まれたことを感謝することを忘れてはならぬ。日本民族こそは将来、東洋、西洋の文化を融合する唯一の媒介者、東洋のすぐれたる道義の文化、人道主義を以て世界文化再建に寄与し得る唯一の民族である。この歴史的使命を片時も忘れてはならぬ。

また君達はどんなに辛い日があろうとも、人類の文化創造に参加し、人類の幸福を増進するといふ進歩的な思想を忘れてはならぬ。偏頗(へんぱ)で矯激(きょうげき)な思想に迷ってはならぬ。どこまでも真面目な、人道に基く自由、博愛、幸福、正義の道を進んで呉れ。

最後に勝つものは道義であり、誠であり、まごころである。友達と交際する場合にも、社会的に活動する場合にも、生活のあらゆる部面において、この言葉を忘れてはならぬぞ。人の世話にはつとめてならず、人に対する世話は進んでせよ。但し、無意味な虚栄はよせ。人間は結局、自分一人の他に頼るべきものが無い——といふ覚悟で、強い能力のある人間になれ。自分を鍛へて行け!精神も肉体も鍛へて、健康にすることだ。強くなれ、自覚ある立派な人間になれ。

四人の子供達よ。お互いに団結し、協力せよ。特に顕一は、一番才能にめぐまれてゐるから、長男ではあるし、三人の弟妹をよく指導してくれよ。自分の才能に自惚れてはいけぬ。学と真理の道においては、徹頭徹尾敬虔でなくてはならぬ。立身出世など、どうでもいい。自分で自分を偉くすれば、君等が博士や大臣を求めなくても、博士や大臣の方が君等の方へやってくることは必定だ。要は自己完成!しかし浮世の生活のためには、致方なしで或る程度打算や功利もやむを得ない。度を越してはいかぬぞ。最後に勝つものは道義だぞ。

君等が立派に成長してゆくであらうことを思ひつつ、私は満足して死んでゆく。どうか健康に幸福に生きてくれ。長生きしておくれ。

最後に自作の戒名

久遠院智光日慈信士

一九五四年七月二日山本幡男

※3 村上誠一郎(2010年6月国政報告会資料)より

村上 教育を立て直して、日本人の本来持っていた価値観をどう維持するのか。欧米・型の実力主義で、とにかく稼ぐことが偉いという考え方もあるけれど、例えば給料が低くても、自分のやりがい、生きがいとか、自分を使命ということを大事に考えるようになって欲しい。やはり「大和魂」や「清貧」の思想というものは大事なんです。そう考えるますと、財政とか教育、外交、国防というものを、もう一度建て直すということはかなり時間がかかるということなんです。特に、財政、教育の建て直しは、今から始めても遅いくらいです。

北 先生は先ほど、地方再生の所で、「自主・自立・自考」という言葉を述べておられました。この2011年という歴史的な分岐点に立っている今こそ、この言葉の大切さを日本人はもう一度、深く考える必要がありますね。日本人ひとりひとりの心

の再生なくして、国家の再生はない。私は福沢諭吉先生の評伝に「国を支えて国を頼らず」という副題を付けました。間違っておられる方がいらつしやるので急いで付け加えますと、これは福沢翁の言葉ではなく、あくまで作家・北康利の造語です（笑）ただ、今回の村上先生のお話を聞いて、まさにこの言葉を思い起こしました。教育を通じた公の精神の再興による日本再生。今回は、村上先生の政治家としての真髄に触れるお話が聞けたと思います。誠にありがとうございました。



村上誠一郎

（むらかみ・せいいちろう）

1952年5月11日生まれ。東京教育大学附属小・中・高を経て東京大学法学部卒業。小学生時代から政治家を志し、大学卒業後、故河本敏夫秘書となる。1986年、衆議院議員に初当選。1992年、大蔵政務次官（宮澤内閣・林大蔵大臣）。1997年、衆議院大蔵常任委員長（60本法案処理）（橋本内閣）。2001年、初代財務副大臣（森内閣・宮澤財務大臣）、財務副大臣再任（小泉内閣・塩川財務大臣）。2004年国務大臣（行政改革・構造改革特区・地域再生担当）、内閣府特命担当大臣（規制改革・産業再生機構担当）として初入閣（第2次小泉内閣）。「熱き志があれば日本は必ず復活する!!」と言う日本の全体像が見えている財政・行革のスペシャリストの衆議院議員。